

景況実感調査(7月)特記事項

毎月、景況実感調査にご協力頂きましてありがとうございます。集計結果は別紙にてお送りしましたが、今月もたくさんのコメントを頂きましたのでお送りします。ご査収下さい。

[お断り]毎月のコメントはあくまで個々の“生の声”です。業界全体の標準的見解とは、若干異なる場合もあります。また、不適當な表現やわかりにくい表現については書き直しております。信用問題にかかわるものも原則として掲載しておりません。

薄板・表面処理鋼板

- ① “下げ基調”は止まっている様子がかがえる。少ロットの引合いが多いため、価格交渉に至らない場面が出ている。それでも在庫が多いため、半期決算やメーカー価格の状況によって再び下げにならないか懸念される。
- ② 薄板3品在庫も4カ月ぶりに減少。ここにきて安値受注の見直し感が強まっている。
- ③ 表面処理鋼板は市中在庫が過剰であるといわれているが、一部ユーザー向け在庫のことで、市中に出回る玉に過剰感はない。コイルセンターでは契約の見直しにより在庫レベルは適正化している。秋需の期待もあり、荷動きと同時にメーカー値上げ分の転稼の実施は時間の問題と思われる。
- ④ 対前月で見ると、稼働日が1日増に比例した程度の売上増となり繁忙感はない。建築関連では、個人向け住宅は対前月比大幅減となっており、暑さの中、工事も遅れ気味。職人不足も深刻化しており、秋需に向けて施工能力不安も抜本的な対策も立っていないようだ。売上、数量ともに低位な中、余剰在庫が資金繰りからか安値品も散見された。汎用品は輸入品も多く、中国の需給悪化の影響もあり、足下の市況悪化の一因ともなっており、国内メーカーのロールタイト化とはギャップがある。いずれにせよ、9月以降の引合い、実需ともに強そうなので踏ん張りどころ。

中板

- ① 稼働日数分、売上も増加したが収益は厳しい状況が続く。在庫過多にて、相変わらず安値も散見される。盆明け以降、建築業界は稼働するとの情報も鵜呑みにはせず、しっかりと商売を続ける。

厚板

- ① 少ロットの引合いが多いため価格交渉が出来ない。
- ② 前月より売上は増加したが収益は厳しい状況が続く。

—舟安开形鋼

- ① 4月以降、全く残業が無かったが、7月第3週より工場の部署により残業が復活してきた。いずれ全員残業の事態となろう。9月からトラック不足が再現するのではないか。
- ② 前々から出ていた職人不足が問題として大きく、現場が有るが着工が進まない。良い方法はないのか。

II开形鋼

- ① 荷動きは良くなっている。8月は実働日数も少ないので、現状の回復基調の維持に努める。
- ② 需要は少し出てきた感があるが、例年より遅い。市況も下げられない水準にきている。在庫がもう少し減れば市況も底を打つのではないか。

異形棒鋼

- ① 鉄筋店売りは、5月6月に比べ7月は動きが出てきた。8月も日当たりの動きは引き続き出ると考える。価格もメーカーが強く、市中も横ばいで推移している。
- ② 期待外れの需要動向であるが、7月後半から若干回復のきざしが出てきた。市況はメーカーの姿勢を反映して横這いで推移。大きな崩れもなく秋需に入る様相である。我慢して、しっかりとした姿勢で販売していきたい。
- ③ 11月頃まで特別な物件に対応している。

平鋼

- ① 7月の荷動きはやや回復するも、まだまだ動きが悪い。建築物件の納期遅れが影響しているのではないかと。一部で好調な動きを見せている業種もあるが、市中から出る物は限定されている。市況は荷動きの悪さから弱含みではあるが、メーカー価格も動かず横這いで推移。

鋼管

- ① 7月は期待感が高かった分、景況感は悪く、日割り出荷量も4～6月レベルで変化なし。
- ② 7月は今年最高の売上となった。8月に入っても継続して好調なので、秋需を期待できる。

構造用鋼

- ① 需要動向については、自動車関連部品はKD部品の輸出を含め全体的に堅調に推移している。建設機械関連大型機種は低位横這いだが、中小型機は北米向け輸出を中心に堅調となっている。また、一般産業機械も比較的堅調。店売りの荷動きは大きな変化なく、盛り上がりや欠く状況で推移している。市況については、メーカーの値上げに伴い、採算確保のため再販価格への転稼を進めている。

その他

<曲げ加工>

- ① 昨年同月からみれば多少数字は増えたものの、思うような加工量ではなかった。大きな見積り件数は増えつつあるが、なかなか決まらず、細かい件数が多く手間物で利益が上がらず、加工売上も伸びなかった。いくらか大物物件があったため何とか7月は保たれたものの、8月に入り毎年の夏季休暇も手伝って、多少の売上減少も覚悟しなければならない。

<スクラップ>

- ① 例年通りメーカーは夏季減産のため休炉や荷制限を行っており、荷余り感が出ている。8月は稼働に数も少ないので、スクラップ発生量も減少が予想されるが、相場は様子見が続くのではないかと。
- ② なぜ落ちこんでいるのか。発生が少なすぎる。

<金属表面処理加工>

- ① 7月は紐付き、物件物とも計画通り。スポットも先月と同様に高い水準での処理となる。先納期ではあるものの引合いは好調であり、しばらく高位安定での扱い量となりそう。原油高騰により塗料、シンナーが値上がり。また、船舶、トラックとも供給不足により陸上、海上の輸送費増加につき加工費への転稼を再び検討する必要

が出てきた。8月も引き続き物件物を中心に高操業。